

生きる力

SHINGON

特集

生きる力とお大師さま

— わたしたちの目標 —

生きる力 SHINGON

Vol. 105

真言宗智山派





高知県高岡郡佐川町
きつしょうざん じょうだい じ
吉祥山 乗台寺

春の彼岸明けに訪れた高知県。今年の桜は早咲きで、空港から目指す乗台寺までは満開のお花見道中となりました。

吉祥山乗台寺は、高知県高岡郡佐川町にあり、本宗の五台山竹林寺庭園（高知市）、臨済宗妙心寺派の青源寺庭園（佐川町）とともに、土佐三大名園に数えられる県史跡名勝庭園（元は旧文部省指定名勝庭園）を有する古刹です。

佐川町内には日本一の清流として知られる仁淀川の支流、柳瀬川と春日川が貫流しており、芳醇無比と謳われた高知の銘酒、司牡丹の味わいに不可欠な水も、この土地で汲まれる仁淀川の伏流水が使用されているとのこと。また、佐川町は植物学者、牧野富太郎（一八六二―一九五七）の出身地でもあります。植物学の父と呼ばれた牧野博士の研究の始まりが、佐川の里山から出発したものであったことから、佐川町の歴史と人々の営みが、仁淀川が育くんだ豊かな自然とともにあることを思わずにはいられません。

春日川のほとりを少し歩いて乗台寺に到着。山門をくぐると、正面に見える本堂を囲むように位牌堂、文殊堂、鐘樓堂、観音堂、祖師堂、天神社と多くの堂宇が立ち並び壮観です。

乗台寺の歴史を紐解くと、千百年前の天慶年間（九三八―九四七）に然天坊宗真によって隣町の越知町に開基されました。当初は遊行寺という名称でしたが、南北朝時代に佐川郷の三野城主、三野三郎左衛門惟宗朝臣師信が佐川へ移転し阿弥陀如来を祀り、吉祥山乗台寺と改名。江戸時代に入り、山内一豊の筆頭家老であった深尾重良（一五五七―一六三二）が佐川に封ぜられて以降は、深尾家の祈願寺となり、新たに不動明王が本尊として勧請され、阿弥陀如来は境内の位牌堂の本尊として祀られるようになりました。



平成 27 年に開創 650 年を迎え、改築耐震工事を完成した本堂。この本堂を囲むようにいくつもの堂宇が立ち並びます。近世まで乗台寺の末寺が多くありましたが、明治時代に乗台寺に統合され、現在のような多くの仏さまが祀られる諸堂が整いました。

乗台寺のひさご園

本堂で手を合わせていると、種田快盛長老（たねだ かいせい）と快徳住職（かいとく）にお迎えをいただきました。はじめにご案内いただいた部屋は、名勝庭園を間近に望む書院造の和室。付書院（つけしょいん）の明障子（めいしょうじ）が開けられると、火灯窓（かとうまど）から静謐（せいひつ）を湛えた池泉と、深緑の木々が目に飛び込んできました。火灯窓に連結するように造られた居待月形（いまちつきがた）の窓も、庭園のしだれ桜が池に花を垂れる優しい風景を切り取っています。

庭園を望む縁側に出て、快盛長老にお庭についてのお話を伺いました。

「この庭園は四百年前、深尾家二代目深尾重忠（ふかお じゅうしゅう）（一五六九—一六五八）が、奥方の病氣平癒の祈願をされたところ効験があり、その御礼として築庭されたものです。お寺の山号にもなっている吉祥山の木々を借景として造られた池泉回遊式庭園で、その全体が瓢箪（ひょうたん）の形のようになっていることから『ひさご園』とも呼ばれています。池の水は全て湧水（よみず）で、遣水（やりみず）、船着、浮島、出島などを配しています。もうすぐツツジやシャクナゲが咲き、初夏には池に自生する水ニラ、ジュンサイ、ハナショウブなどが咲きます。木々に自生するセッコクやフウランも花をつけ、秋にはモミジが紅葉し、大銀杏が鮮やかな黄色に染まります。銀杏の落葉で池が一面黄金色になる様子

はとても綺麗ですよ」

その日は朝方に雨が降ったため、植栽の緑がまだ潤いを保ち、築山のなだらかな苔と樹木が柔らかな午後の陽光に映えて、美しい緑色のコントラストを織り成していました。

飛不動と齒吹阿弥陀

庭園が涼やかな印象を漂わせつつも、重厚な趣を呈しているのは、庭園の中央にどっしりと根を下ろした大銀杏の存在感によるものでしょう。

樹齢五百年、樹高三十メートルにもなる大

銀杏はまさに乗台寺庭園のシンボルツリー。

享保（一七一六—一七三六）年間に乗台寺が大火にあつた際、不動明王の掛軸が本堂から飛び出し、この大銀杏の枝に掛かると、火の手を沈めたという「飛不動」のお話も伝えられています。

その飛不動の御影は、巨勢金岡の筆と伝わるもので、火難を避けた伝説のとおり、傷みもなく綺麗に表装されて乗台寺の宝物館に収められています。御影には不動明王の眷属（けんぞく）の童子（どうじ）が描かれますが、二童子ではなく、制陀迦童子（せいたかどうじ）のみを従えて佇立（ちようりつ）する珍しいお姿。

また、当初の本尊であった阿弥陀如来も、



- ① 250 年前に建てられた書院造りの和室から望む名勝庭園。閑寂な情趣を感じます。
- ② 春日川の桜並木。佐川町には穏やかな時間が流れています。
- ③ わずかな天候や光の変化でさまざまな表情を見せるお庭。
- ④ 庭園の中央に根を下ろす大銀杏。庭園の見頃は銀杏が黄葉する晩秋とのこと。

齒吹阿弥陀と呼ばれる全国でも類例の少ないお姿の阿弥陀さま。飛不動さまも齒吹阿弥陀さまも衆生済度の誓願をはっきりと表すように力強いお姿を示されています。

柱の短冊「楽」

和室に戻ると火灯窓の柱に一葉の短冊が掛けられてることに気が付きました。

呉竹のうきふしおほき中にこそ
たのしき事は籠るなりけれ



- ⑤ 齒吹阿弥陀像。説法するお姿を表し御口をわずかに開け水晶の齒をのぞかせます。
 ⑥ 伝巨勢金岡筆「不動明王画像」。大火を鎮めた「飛不動」の靈験譚を伝えます。
 ⑦ 田中光顕が詠んだ短歌「楽」。激動の人生を生き抜いた人物だけにその歌はとても趣深いものがあります。
 ⑧ 長老の種田快盛師 ⑨ 住職の種田快徳師

うに感じました。歴史ある寺院と庭園を守り伝えていくためには、きつとたくさんのご苦労もあることでしょう。しかしお二人が乗台寺の将来をお話しされるときは、とても朗らかに楽しそうに話されます。快盛長老はいいです。

「幼い頃からこの寺とともにあって、このお寺の歴史と信仰を守り伝えることをずっと

「楽」と題されたその短歌は、昭和の初めに九十二歳にして乗台寺を訪れた田中光顕（二八四三—一九三九）が詠んだものです。

田中光顕は深尾家の家臣の家に生まれ、幕末には坂本龍馬や中岡慎太郎とも交流し、明治政界では板垣退助とともに自由民権運動に尽力し、宮内大臣まで務めた人物です。田中は晩年、故郷の庭園を眺めながら、激動の時代を生き抜いた人生を振り返ったのでしょう。歌に詠まれた精神は、快盛長老と快徳住職の乗台寺への思いの中にも息づいているように感じました。歴史ある寺院と庭園を守り伝えていくためには、きつとたくさんのご苦労もあることでしょう。



ACCESS アクセス

吉祥山 乗台寺

〒789-1201 高知県高岡郡佐川町甲1746

Tel 0889-22-0633

電車 JR佐川駅より徒歩約15分

車 高知自動車道 伊野ICより約30分



智山寺院探訪スライドショー

掲載しきれなかった写真や
見どころを動画で紹介しています



撮影／村中修

（智山教化センター所員／伊藤尚徳

続けてきました。その気持ちはこれからも変わりません」

快盛長老から三年前に法灯を受け継がれた快徳住職も、その思いは同じといって穏やかに語られます。

「乗台寺の仏さまを拝みに、お庭で心を休めに、全国各地から多くの方々がこのお寺にやって来られます。『一期一会』の精神を大切にし、出会いの一つ一つを仏縁と観じて大切にし、ご参拝の方々をお迎えしたいと思います」

季節が巡るたびに何度も訪れたい乗台寺。今度は池泉の水面が黄金に変わる晩秋に、きつと訪れたいと思います。

今日の法語
「和顔愛語」

野澤 隆規
(神奈川県横浜市
正泉寺住職)

和顔愛語

昨今の社会情勢により、スマートフォンやパソコンなどによるインターネットの活用が増え、人と人が直接顔を合わせて間近に話す機会が減ってきているようです。

このような時代だからこそ、私たちは日常生活において、和やかな顔「和顔」と、やさしい言葉「愛語」で、直接コミュニケーションを取り、信頼関係を深めていくことが大切です。

まずは一番身近な家族から実践してみましよう。



お盆の習慣は世代を超え、今まで脈々と受け継がれてきました。ご先祖さまを大切に感謝する心が、これからも伝わり続けますように。

生きる力とお大師さま

—わたしたちの目標—

もうすぐお盆がやってきます。昨年は、新型コロナウイルスの影響により帰省ができず、お墓参りに行くことができなかった方も多いと報道されておりました。本年こそは穏やかにお盆を迎えられ、皆さまが無事にご先祖さまをお迎えられることを願うばかりです。

お盆の具体的な慣習は地域によって異なりますが、共通してその根底にあるのは、ご先祖さまへの「感謝の心」ではないでしょうか。ご先祖さまといっても一体どこまで遡ったらいいのだろうか、と誰もが一度は考えたことがあるかと思います。その命の繋がりをひとつひとつ辿っていくと、それは終わりのみえない、果てしない作業になることでしょう。そして、もし自分のご先祖さまが一人でも欠けていたとしたら、今この世に自分が自分として生きていることはありえませんか。そのように考えると、自分という存在がいかに奇跡的なものなのか、そしてご先祖さまがいかに大切な存在なのか感じられます。

感謝を表す言葉は「有難う」で

す。この言葉は「有るのが難しい」つまり神仏の大きな力によってもたらされたであろう、奇跡への感謝を表すために本来は使われていました。現在ではお礼の言葉として日常的に使われますが、私たちに宿る命の意味を考えると、ご先祖さまにこそ心から伝えるべき言葉なのかもしれません。そしてお盆は、その感謝を伝えることのできる大切な行事であるといえます。

「お大師さま」への感謝を伝える

人身受け難し 今既に受く
佛法聞き難し 今既に聞く … (三帰礼文)

私たちが人間として生を受けられたのは、ご先祖さまのおかげであり、仏さまの教えを今聞くことができたのは、お釈迦さまの教えを脈々と伝えた歴代の先師のおかげです。特に私たちにとっては、真言宗の宗祖である弘法大師空海さまは特別な存在です。

弘法大師空海さまは平安時代初期に活躍した僧侶で、唐(中国)から密教を日本にもたらします。その教えは革新的であり、多くの人々を惹きつけ、当時の朝廷からも絶大な支持を獲得していきました。そして現在に至っても「お大師さま」の呼び名で親しまれ、人々からの信仰は篤く、各地でお大師さまの

ご宝号「南無大師遍照金剛」がお唱えされています。また、お大師さまゆかりの地である四国八十八ヶ所霊場を巡るお遍路には、毎年多くの人が訪れ、お大師さまはいつも私たちのそばで見守ってくださるという「同行二人」の信仰が生まれたといわれます。

宝龜五年(七七四)にお生まれになったお

大師さまは、令和五年(二〇二三)にご誕生一二五〇年を迎えます。真言宗智山派では、記念の年である令和五年に向けて、ご誕生を祝う慶讃事業を行っております。それらを通じて、皆さまにお大師さまの魅力を今まで以上に伝えたいと思います。



わたしたちの目標

生、ま、つ、か

仏さまに祈り 仏さまと出会う

南無大師遍照金剛

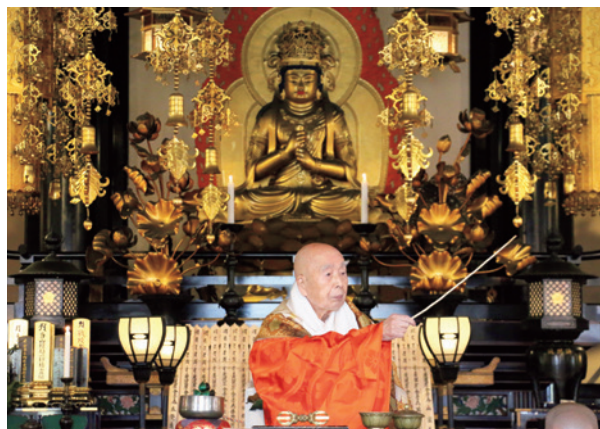
ご宝号から始まる 仏さまへの祈り

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964番地
TEL 075-6416003
ホームページ <http://www.chisan.or.jp> 智恵院 徳栄 南・東山川



四国遍路の一場面

同信の仲間と巡る道中は「同行二人」を感じ、お大師さまのご宝号「南無大師遍照金剛」をお唱えしながら歩んでいきます。



総本山智積院の金堂で洒水加持をする化主猊下

総本山智積院の団参廻向では、金剛合掌を結び、化主猊下より洒水加持とお授けをいただきます。

「わたしたちの目標」について

真言宗智山派では、「わたしたちの目標」として「生きる力―仏さまに祈り、仏さまと出会う」を掲げています。「わたしたち」という言葉には、生きとし生ける全ての人々が含まれており、皆とともに目指していく目標が「わたしたちの目標」です。

それでは、この「生きる力―仏さまに祈り、仏さまと出会う」とは、どのようなことを表しているのでしょうか。

「生きる力」という言葉を考えるためには、まず「命」について考えることが必要です。自分へと脈々と受け継がれてきた、命。その源をたどると、始まりは一体どこにあるのでしょうか。真言宗では、命も含めた万物の根源を「大日如来」という仏さまとして捉えています。私たちの命も大日如来からいただいたものであり、万物の根源が大日如来であるからには、自分自身も大日如来に他ならないと考えたのが、真言宗の教えです。つまり仏さまになる「さとり」は外から得るものではなく、もともと私たちの内に具わっており、私たちはそれに気がついていないということです。

このようにいうと「自分自身が本来は仏さまなのだといわれても、信じられない……」という方も多いかもしれません。また、自分

は仏さまとは正反対の人間だと思う方もいるかもしれませんが。しかしどんな人にも、内に秘められた仏さまとしての片鱗があらわれる瞬間があるのです。それは、「仏さまに祈る」瞬間です。

皆さまはどのような時に「仏さまに祈る」のでしょうか。亡き人の冥福を祈るとき、願いを叶えたいとき、感謝を伝えるときなど人それぞれ思いがあるかと思えます。そのなかでも自分の力を超えて他者のために祈るとき、それはまぎれもなく仏さまの慈悲心が表れた瞬間といえます。祈りを通じて、他者を思いやる優しくあたたかな心が自らにも具わっていることに気づくことができます。

それでは、自分のために祈る場合はどうでしょうか。一説には、祈りの語源は「意宣り」であるといわれます。つまり、祈りは自らの意（こころ）を宣言することであり、いただいた命を大切にし精一杯輝かせることへの決意表明なのです。一生懸命に命と向き合い進んでいく姿は非常に尊く、それは自らの内なる仏さまの表れだといえるのではないのでしょうか。

祈りのすがた

金剛合掌

お大師さまは、仏さまの慈悲の力が私たちに注がれていることを「加」、私たちが信心

目次

智山寺院探訪 吉祥山 乗台寺	2
今日の法語 (野澤隆規)	5
特集 生きる力とお大師さま	6
お大師さまとご信仰 (田村宗英)	10
梵字よもやま話 (小峰智行)	11
図解・仏教ガイド	
「マンガでわかる十三仏」(え・悟東あすか)	12
御詠歌を、聴いてみよう、見てみよう (佐藤芳典)	14
日本の四季を切り取る十七文字 (星野高士)	15
総本山の便りをお知らせします	16
ニンゲンのつくり方 (中嶋亮順)	18
ごくらくらくご (三遊亭竜楽)	19
知っておきたい仏事 Q&A	20
読者アンケートから・おしらせ・編集後記	22
真言宗智山派出版物のご案内	23
僧侶と学ぶ仏像鑑賞の伊呂波 (池田英真)	24
お大師さまのご生涯	
一 お大師さまカルター (川崎一洸・三船毅志)	26
「ウェルビーイング」心豊かに生きる (渡邊淳司)	28
花に聞く 仏に聞く (佐々木隆元)	29
私のお大師さま	
ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko (内藤理恵子)	30
ご本尊さまと出会う (小笠原隆浩・黒川広志)	31

によって仏さまを感じ保ち続けることを「持」といい、二つを合わせて「加持」と説かれました。つまり、仏さまのお力と私たちの信心、それらがひとつになることが大切だということです。この考え方を真言宗では非常に大切に、作法にもそれが表れています。合掌は日常的な祈りの作法のひとつですが、真言宗には「金剛合掌」という手の合わせ方があります。実際の手の合わせ方は、菩提寺のご住職よりお授けいただき、正しく結ぶことが大切ですが、この合掌が示すところは、仏さまと私たちが、より堅固にともにあ

るということです。

また、仏さまの力を込めた香水(香によって浄められた浄水)を導師が皆さまに灌ぎ清める「洒水加持」や「お授け」という作法があります。その際にも金剛合掌をしてお受けいただくことによって、仏さまとひとつになることをより強く意識でき、その意義はさらに深まっていきます。仏さまからの一方通行ではなく、お力をいただく私たちの祈る姿勢や心も大切にしていきましょう。

(智山教化センター所員／金剛洋輝)

表紙

伊良部島の三角点
沖縄県宮古島市



この三角点といわれるポイントは非常に分かりづらく、鬱蒼とした繁みの中を少し歩いた先にあるのだが、足元のスペースがほとんどない場所で柵もなく断崖絶壁なので、絶景と共にスリルも味わえる場所となっている。

P5

四季彩の丘と十勝連峰
北海道美瑛町



これだけのスケールで、このようなカラフルな花畑は、日本にそうはないと思う。この花だけを見ても来た甲斐があったという気持ちにはなるが、写真家としてはバックに佇む十勝連峰と一緒に撮影する満足感を得るために、1週間滞在することになった。

撮影・解説／縄手英樹



平成十年十二月十六日第三種郵便物認可「生きる力S・E・N・S」第一〇五号 令和三年六月一日発行 年四回(六月・九月・十二月・三月の一日)発行 定価一〇〇円(税込)
 発行人／芙蓉良英 編集／智山教化センター 発行所／〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964 総本山智積院内 真言宗智山派宗務庁

京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964
 TEL: 075-541-5361 FAX: 075-541-5364



宿坊智積院
 会館HP

夕食別途3,300円から消費税込
 ご予約・お問い合わせ
 TEL 075-541-5363
 ・JR京都駅よりバス約10分
 ・京阪電車七条駅より徒歩約10分
 ※ご宿泊のご予約は、6ヶ月前の1日より開始いたします。令和3年6月現在、令和3年12月分までのご予約を受け付けております。
 ※ご予約は智積院公式ホームページ(左記QRコード)からできます。
 ※GOTOトラベル事業者に登録されております。詳しくは、お電話でお問い合わせください。

宿坊 智積院会館

一泊朝食付きプラン
 8,300円から

写経のついで
 毎月21日 13時より
 於 智積院会館大広間
 (納経料千円・要事前申込 定員50名)
 智積院阿字観会
 毎月12日
 午前部 11時より受付10時30分より
 午後部 14時より受付13時30分より
 ※8月と12月は8日
 於 智積院講堂
 (参加灯明料五百円・要事前申込 定員15名)

東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8
 TEL: 03-3431-1081 FAX: 03-3431-0203

真福寺阿字観会

昼の部15時より
 ※夜の部は当面の間中止にします。
 於 本堂(無料・要事前申込)
 6月22日(火)
 7月27日(火)
 8月24日(火)

やすらぎ寄席

毎月第3木曜日 18時30分より
 於 本堂(木戸銭千五百円)
 6月17日 二遊亭
 7月15日 談志一門会
 8月19日 二遊亭

愛宕薬師ご縁日(毎月8日)

※8日が土日祝の際は第一金曜日
 ・大護摩供法要 12時より
 ・写経会(納経料千円) 14時より
 6月8日(火)
 7月8日(木)
 8月6日(金)
 ※6月8日(火)は大施餓鬼会法要を行います(11時より)。

Instagram



総本山智積院



宿坊智積院会館

Facebook



総本山智積院

※ご案内の行事は、新型コロナウイルス感染症の影響により、延期または中止となる可能性がございます。詳細は、記載の連絡先へお問い合わせください。